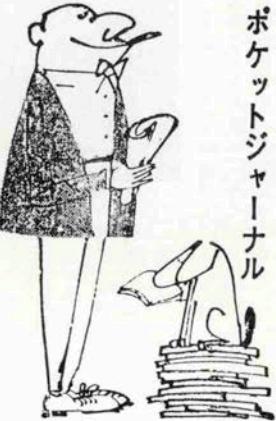


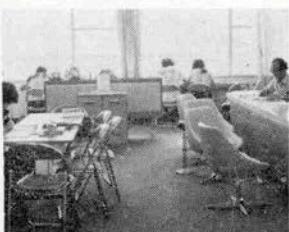
ポケットジャーナル



★神戸市余暇情報センター

オーブン

週休二日制の会社が増え自分で自由になる時間が多くなってきた。「ハイキングに行きたいが適当なコートは?」「文化講座、展覧会がどこで開かれているのでは?」「スポーツをしたいが適当な場所は?」等



余暇情報センター(神戸国際会館内)

発課が設置したもので、お

もに神戸市内の余暇活動の情報を電話で知らせることになつて。オーブンして以来、毎日二、三十件の問い合わせがあり、県外から

うぞ! 毎日十二時から八時まで。水曜日は休み。

TEL二五一ー八四六一

★チビッコ合奏団、

神戸にお目見え

神戸市にはじめて誕生した。神戸市少年少女合奏団

(小杉博英会長、潮崎満理

事長)がそれで、この四月に結成されてから諷訪山小

学校の市民音楽教室で練習

を提供し、相談に応ずる神

戸市余暇情報センターが七

月一日から神戸国際会館四

階「三宮青少年ホール」内

にオープンした。

これは今年の四月から新しく設けられた市の余暇開

で日頃の練習の成果を披露する少年少女にさかんに拍手を送っていた。また、代表クリーンの芝田由美さんから花束を贈られ大いに照る一幕もあり、なごやかな雰囲気であった。

文化都市神戸の若きシンボルとしてスクスクと育つ

て欲しいものである。



「日の丸変奏曲」を熱演するメンバーたち

★ボランティア大募集!

「誕生日ありがとう運動」は、

神戸を拠点に全国に広がった精神

薄弱児問題啓蒙運動です。

今年五月で八周年を迎えた。

育ててくださった神戸の皆さ

まに感謝いたします。

今なお、ますます広がりつつあ

るこの運動は、(スタッフとして働

くボランティア(自發的奉仕者)

仲間を募ります。

することはいっぱいあります。

あなたの生活の中で、あたいでいる

時間を少しまわしてください。

・入会退会に条件はありません。

・勤めている仲間は会社員、O

L、学生、主婦、教師、種々様々

ごく一般の人たちです。

・金銭的報酬はいっさいありません。

・何かをしたい人、生きがいを求

め暗中模索の人、自分の時間を有

意義に使いたい人、仲間が欲しい

人……そんなあなた、仲間になつてください。

★誕生日ありがとう運動とは

誕生日お祝いの中から意識的

に百円節約し貯金する。各家庭

で、この問題について話し合う機

会をもつ。このことを手がかりと

して、わたしたちすべてが精神薄弱児(者)をあたかく包む雰囲

気を広げると同時に、ひとりひとりのかけがえのない命について思いをめぐらせ、年に一度の誕生日を有意義にしよう、という運動です。

誕生日お祝いがどう運動部部

神戸市芦台区御幸通八の九の一

神戸国際会館一階(郵便局の前)

(二五二)八一六一内線316

誕生日

ありがとう



つた。

Wのレコードが発売

メッセージを手渡される福本君



★バスの外装をオレンジ色にしようじゃないか！

ンをもつと楽しく秩序あるものにしようとの目的で、このほどデザイナーの大野（大野洋子）のすべてが収録されたレコードが発売される。

A black and white photograph showing a man from the waist up, wearing a light-colored button-down shirt and dark trousers. He is standing to the left of two framed artworks. The artwork on the left depicts a dark, textured object, possibly a piece of art or a photograph. The artwork on the right depicts a dark, possibly black, animal, like a bear, in a landscape. The background is a plain, light-colored wall.

動物の孤独は人間自身のもの……

「孤独な動物たち」と題するこの個展には、三十点余の力作が出品され、牛や馬のデフォルメされたユニークな油絵は見る人を魅せる迫力を持っている。

兵庫県文化賞受賞記念の
貝原六一さんの個展が七日
一日から八日まで、元町二
丁目のアカデミー画廊で開
かれた。

美術

その基本となるのは秩序と多様性です」神戸まつりでも毎年独創性あるイベントをみせる大野さんだが、これからはデザイナーの立場から都市環境の問題に大いに取り組むという。バスの

1の交代や多忙な生活のため演奏活動は停止状態だつたが、レコード制作を機に再び活動が始まりそうである。

テーマについて、貝原さんは「人間とかかわりのある動物の孤独を描くことで、人間自身の孤独を表わしたんです。人間を描くとしめっぽくなるので、動物におきかえてね」と説明された。戦争体験を持つ貝原さんは、弧獨の深い淵を、絵で表現している。

「孤独な動物たち」と題するこの個展には、三十点余の力作が出品され、牛や馬のデフォルメされたユニークな油絵は見る人を魅せる迫力を持っている。

兵庫県文化賞受賞記念の個展が七月一日から八日まで、元町三丁目のアカデミー画廊で開かれた。

★神戸薪能八月一日から

今夏の神戸薪能のプログ
ラムが決まった。八月一日、二日長田神社境内、八月二
十五日須磨離宮公園、いすれも六時三十分に始まる。

出しものは

八月一日 長田神社

能楽・鶴亀、杜若、石橋

狂言・附子

八月二日 長田神社

能楽・橋弁慶、胡湖

狂言・蝶虫

八月二十五日 須磨離宮公園

能楽・羽衣

狂言・伯母ケ酒

解説・畔柳盈雄

神戸薪能協会主催、別に

姫路城公園での企画もある



時計花

★人間を大切にした街を
回社会福祉夏季大学」が
協議会が主催する「第13

七月は兵庫県社会福祉

また海員会館では誕生日

ありがとう運動の主催に

による「第一回市民の福祉

講座」が開かれた。

どちらも日本の一流講

る。

★六甲に素敵なブティック

阪急六甲から数分、店主
のセンスの良さが感じられるブティックMELISH。神戸生まれのデザイナー浦野

敏彦さんが御主人。パリで

P・カルダンに弟子入り修

業した経験を持つ二十一歳

の青年だが、カルダンのよ

うに巾広くトータルなデザ

インを手がけるのが夢と語

る。秋にはオリジナルなニ

ットを製作販売する予定。

オートクチユール・プレタ

ボルテMELLはTEL・

八四一四八五八。

★北欧からの格調高い毛皮

シヨー

一五〇年の歴史と伝統を
誇る北欧のA・C・BAN

師によるレベルの高い充

実した福祉講座であり、

参加した受講生たちは猛

暑の中を熱心にメモをと

り、耳を傾けていた。

最近こうした福祉講座

やボランティアの研修会

カウンセリングの研究生

がかなり増えてきている

ようと思う。これも福祉

社会志向型の一つの現象

かもしれないが、近年の

目にあまる日本の環境破

壊、P.C.B汚染はじめ

とする種々の公害、住宅

難や物価高による生活の

圧迫、イライラなど近年

(H)

KOBE POST

★青玄の主婦伊丹三樹彦さんより

KCC(新聞館九F文化センター)の現用句教室を、八月より

心者対象(回につき三句添削)第

一・第三金曜日午前十時~十二時

第一回は、八月三日よりとなって

います。お問合せは○七八一一二

一八五八〇吉岡靖子迄

毎月二回(二ヶ月二、〇〇〇円初

心者対象(回につき三句添削)第

一・第三金曜日午前十時~十二時



豪華な毛皮コート

★女流カメラマンの一瀬元子さ

ん(西宮市甲東園口二ノ三十七ノ

八)は、七月十七日~二十二日銀

座ニコンサロンで「女の話~業娘
空華」のタイムル~一の瀬元子写
真展を開かれました。新住所は、神戸市芦合区日暮六丁目五
ノ十七TEL〇七八(二二二)一八七
五です。

★女流カメラマンの一瀬元子さ

ん(西宮市甲東園口二ノ三十七ノ

八)は、七月十七日~二十二日銀

座ニコンサロンで「女の話~業娘
空華」のタイムル~一の瀬元子写
真展を開かれました。

★画家津高一さんの陶作「わす

れもの」展が、大阪のギャラリー

「今井」で七月十六日~二十一日

まで開かれました。

★竹田洋太郎さんのニューヨーク

での新居は左記の通りです。

Yoraro Takeda

5601 Boulevard East

West New York,

New Jersey

Apt. 24-H 07093

★日本専売公社の金口所長はこの
ほど横浜へ栄転されました。今後

の御活躍をお祈りします。

アサヒビール特約代理店



●お酒の殿堂

酒類調味食品問屋

◎ 神戸酒類販売株式会社

本店・生田区中山手通1丁目76

TEL (078)321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

元祖



おいしさが
口いっぱいに
ひろがる……
本場の味



■三宮センター街柳筋店
TEL 321-3446・331-0572

■新開地店
TEL 576-1191

■平野店(平野市場内)
TEL 361-0821

■三宮センター街サンプラザビルB1
TEL 391-3793

鮓の又 半



神戸三宮生田ノ社ノ西 電話(331)0935

おすし
てんぶら



火下彌



本店

大丸前・三宮神社東

T E L (331) 56732

さんちか味のれん街
(毎週水曜日休み)
(第3水曜日休み)

TEL (331) 5233

営業時間
A.M.11.30~P.M.9.00

SUMMER KOBE SHOPPING

コアベ三宮
サムライ

でんわ・
321 321 331
一〇六三三四一
六三五七一

やつぱりうまい
まさしのとんかつ



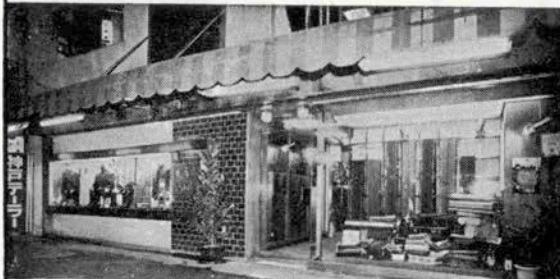
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

三恵洋服店

元町4丁目 TEL (341) 7290

高級紳士服専門店

神戸テーラー



さんちかメンズタウン TEL (391)0388
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL (331)2817・3173

夏の太陽のもと子供たちは強く育ちます
カメヤには水遊びのオモチャがいっぱい



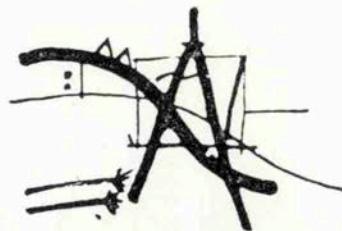
おもちゃの
カメヤ

三宮方面でのお買物は……
さんちか店 フアミリー タウン 391-4045
三宮店 センター街 (改装のため休業中)
元町方面でのお買物は……
元町店 元町通3丁目山側 331-0090
バシブワ店 元町通1丁目不二前 391-0768



SUMMER KOBE SHOPPING

額縁絵画・洋画材料
室内工芸品



末 積 製 額

三宮・大丸北
トア・ロード
331 1309・6243



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

太田鼈甲店

元町1丁目 TEL (331)6195

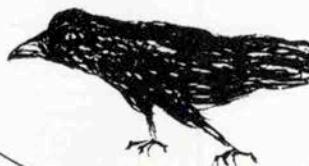
ショート・ショート

HONEY

〈前編〉

下大路 由佳

え・佐藤 英夫



夾竹桃の、官能に充ちた桃色の花房の間から、林立する白いビルの群と、そしてその向うに広がる神戸の海が見える。今日の最後の太陽が、海を赤い残照で輝らし、海は巨大な一匹の魚の背の、鱗のようと思えた。勇壮に臨終を迎えるとして沖へ向う、老魚の背の鱗のように、最後の太陽は海を、不吉な朱で染めている。南から、風が崖の上のテラスに吹いて来る。一日中、南風が街を駆け抜けているのだった。今、盛りを迎えるとする夏が、微かな海の匂いと共に暖かい南風の中にその到来を予告させた時以来、一日中街には海の匂いがしていた。そこは、神戸の海と街並みを見下ろす、崖上の白いアパートメントだった。

レイコは、石だまになつた急勾配の細い坂道の中腹に、木蓮の高い木立ちがついこの間まで、大きくて白い、肉の厚い花弁を、夜の宙空に、冥府と現実世界の境界に咲く花のような、一種の宗教性をたたえて浮かび上がらせていたのを思い出す。木蓮の高い木立ちは、ほとんど緑色のベンキが剥げ落ち、坂の、勾配の下方に向かつて家そのものが傾きはじめて、古い洋館の、二階の屋根まで届いていた。開け放された鎧戸の中に人影は見えず、ただ電灯だけが灯された。しばらくすると、ギターが弾られるだろう。レイコは、彼女が現在たたずむアパートメントに暮していた三年の間、一度も古い洋館の住人を見た記憶がなかつた。夕方になると、鎧戸の中に電灯が灯り、そしてギターが弾られ、時々、低い男の歌声が聞えることもあつた。しかしその歌の詩は、彼女のテラスまで明確に届くことはなく、時としては、中近東のモスクの屋根から発せられる、長く哀しい尾を曳く歌声のようにも思えた。いずれにしろ、彼女は古い洋館の住人を知らなかつたし、洋館には表札はなかつた。いや、ひょつとすると、レイコは三年の間

に、その家の住人を見たのかもしれなかつた。ただ彼女がそれを忘れてしまつただけかもしれない。彼女が持つ余りにも多くの顔達、別離という名で彼女の裡に棲みつき、そしてその別離のもつ半ばの永久性のために肉体を失い、ただの標識としての墓標のように、彼女の裡に在る顔達夥しい男の顔——。そうだわ、娼婦だったわ、そして……、そこへ戻るだろう……また。彼女は思つた。

「ヴァーノン、陽が沈んだわ」

彼の返事は返つて来ない。彼女は、夕暮が徐々に、やさしい休息で包みはじめている彼等の寝室を振返つた。

ヴァーノンは、海に向いた部屋のほほ中心、ヘッドの傍らのソファから、彼女を視認めていた。金色の睫の下から、彼女を見上げている彼の、紫に近い青い眼は悲しき氣で、その透き通つた悲しみの色は彼女に、彼に対する激しい謝罪を覚えさせ、それ以上彼を眺めつづけることを耐えられなくさせた。彼女はまた、彼に背を向けて海の方へ向き直つた。それから低い声で言つた。

「陽が沈んだわ……死んだわ……、今日が」

そうだ、今日が死んだわ。そして今、太陽に染められた赤い雲がち切れ、淡い水色から紫色へと移行して行く美しい空のこの七月もやがて死ぬだろ。彼女が死を意識はじめた瞬間、それはそこかしこに、例えば、七月の夕べの屋外を横切つて行く猫の鳴き声、迫つて来る闇の中に融合することを頑なに拒んでいる、現在は螢光色を帯びたよう見える夾竹桃の桃色、彼女の見知らないギターの弾き手、その旋律、そして彼女の愛している一つの顔の上に、死は姿を現わすのだ。なぜなら、世界そのものが過ぎてゆく瞬々の中に死んでいたから。レイコは、自分が又しても束の間、死と戯れていたことを認めめた。死を強く彼女の認識の中に甦らせ、そのことで彼女は、自分自身の生を、自分に向かつて認識させようとしているように見えた。あたしは生きているわ、それ死を認識出来るという事実によつて。

「Honey」

ヴァーノンが彼女を呼んだ。彼が彼女に呼びかける時が自分で使う〈Honey〉という響きに、レイコは常に、彼のすべての愛情を、やさしさを感じた。彼女は彼に微笑してみせた。

「Honey, My honey bunch」

だが、彼が言葉にする前に、彼女は既に彼が言おうとしていることを知つてゐた。だから彼女は微笑しながら努力して快活に言つたのだ。

「ヴァーノン、あなたいつか言つたわね。本当？ カリフォルニアでは、太陽は山から昇るの？」

ヴァーノンは、一時、眼を閉じた。彼の瞼は淡い堇色をしている。彼が疲労する時、決まって現われる淡い堇色を彼女は愛した。そして、抑制し難い、奔流のような愛しみが、ほとんど気狂いじみたやり方で彼の瞼に自分の唇を何度も押し当てるための夜を、レイコは思い出していた。

「カルフォルニアでは、太陽は山から昇る……。だから僕は、それを君と見ようと言つてゐるんだ。僕達のチームの日本での仕事は終つた。何度も言つたけれど、当分僕にはover seaはないだろう。彼等がこの次、僕をどこに送るか僕は知らない。とにかく、日本へはおそらく僕はもう二度と来ることはないと想ふ。君は、どうして僕とカリフォルニアへ……」

レイコは静かに首を振つて彼を遮つた。そして彼に近づき、傍らに腰を下ろすと、彼の首に両手を巻き、紫がかつた青い彼の眼の中を覗き込んだ。それから、ゆつくり言つた。

「Darling あたしは、あなたの奥さんにはなれないわ。レイコは、傲慢に聞えたら許してちょうだい。でもそれはあたしが世界だからよ。この世界そのものだからよ。ヴァーノンあたしは死なの」

彼女はヴァーノンの首に廻した手に力を籠め、彼の肩に自分の頭を乗せた。

「でも……、愛しているわ、あなたを、とても」

彼は、彼女の肩に手を置くとそれを抱きしめた。レイコは、彼女自身を世界そのもの、死だと言う。ヴァーノンは彼女の裡に在る空しさを理解していた。理解したからこそ、彼はこの娼婦をしていた女と、三年間を共に生活したのだ。生の空しさを垣間見た人間を、その底なしの暗い穴から引戻す力が、自分には無いのだと彼は思つた。そして彼は自分を恐ろしく無能に、黄泉の戸口に立つてユーリディスを呼びつづける、敗北したオルフェのようを感じた。自らを死と呼ぶこと、一つの空しさそのものに自分を化そとする彼女。多分彼女は、彼女のようないい人間が自らを生きつづけさせる唯一の手段として、それを選んだのだ。ヴァーノンは、テラスの細い支柱越しに見える、水平線がもう定かではなくなり、空の紫色に溶け入り、そして点滅するイルミネーションからこぼれ落ちた、幾つかの光の滴のような船の灯が揺れている海の辺りに、眼をやつた。彼は、レイコのいく分しわがれた低い声を、彼の記憶の中で探っていた。

「Yes, I have just separated from a man. He will never be back again. So, that means a death to myself. (ええ、あたしはある男のと別れたばかりよ。彼は一度と帰つて来ないわ、そう、それは一つの死そのものを意味している)」

その夏の夜明け、突堤では、停泊中の貨物船が原色の国旗を、靄の中にぐつたりうなだれ、灰色の船体をひつり波間に浮かべていた。すべてが最後の眠りを貪欲に貪つてゐる時間、朝の間近かといふよりは、夜の静寂と眠りの孤独を、夜の只中に居る時よりもむしろずっと感じさせるそれは、真夏の午前四時の港だった。ヴァーノンは、人気のない街を凄いスピードで車を飛ばし、そして港の突堤の先端に車を止めたのだった。運転席のシートでハンドルを握りながら、彼は故郷のロスの、ハイウェイだけが彼の前方に延々と横たわる、ロス郊外一時間以上も人影も車も見えない、ハイウェイの白さ。

皮肉なことに彼が世界の多くの土地で売り込むコンピューターが、彼の能力を冷酷に彈じき算定し、決定づけてしまう日々の連なり、コンピューターにファイルされた夥しい書類の一枚となりつづけることが、彼の地位を保持し、それ等の書類から外される日、ノルマ未達成によつてお払箱になる——日々の連なりが時にヴァーノンにもたらす、叫び出したいという発作を、ロスのハイウェイの白さの中に埋没させ、何マイルも彼は車を走らせつづけたのだった。しかし、ロスのハイウェイの白さが、彼に瞬間、奇妙な郷愁を覚えさせた。だが、と彼は思つた。エトランゼとして、この見知らぬ土地、彼にとっては〈KOBÉ〉という街の名さえもが、未知の、新鮮なエキゾチズムをたたえた土地に在る彼の存在が、現実を越え、現実を変形させ、遂には抽象物そのものとして美化された故郷ロスを、彼の内部に構築しているのだ、と。故郷に自らを定着させようとすれば、彼はきりもないお互いの酷似しすぎた日々の連鎖を嫌悪し、そしてそれ等の日々の背景としての街を嫌悪し、土地そのものを嫌悪するだろう。初めて降り立つ海外の街々で、彼を最初に見舞う激しい不安が、彼の全神経を極度に張りつけさせ緊張の頂点へ彼を押し上げる、身震いするような戰慄を、彼は愛した。だからこそ、彼は土地から土地をめぐるしく移りつけたのだ。海外派遣が終る日、彼は社を去り、新しい別の職場を、ステイツの多くのビジネスマンがそうであるように求めるだろう。しかしあとの他人達がそうであるように、より高いサラリーの為にではなく、身震いするあの不安と戰慄の為に。ヴァーノンは岸壁に打ち寄せる、小さく穏やかな、空の色を反映した灰色の波に眼を落した。海ほど不可解なものは無い。海は彼にとって、観念、それ自体のようと思えた。果てしもなく打ち寄せ、果てしもなく引いて行き、そして尽きることのない、その捕え難さ。余りにも巨大でありながら、余りにも希薄な海の実在感。彼は、自分が海を追い求めつづけるだろうことを、生涯を賭けてそれを追い

得るだろうことを確信していた。だが彼は、自分の確信がどこから来るのかを詮索してみようとはしなかった。

海を、希薄な実在感を追い求めつづけることの可能性と確信が、正しく彼の持つ男性、から来るのだとこういふとを彼は考えてみようとはしなかった。

ヴァーノンが車に戻りかけた時、彼の紫がかつた青い眼の中に、レイコは居たのだ。彼女は、突堤の倉庫の、厚い金属の扉にもたれ、海の側に向いて立っていた。辺りを包んでいる白い靄よりも、さらに白く乾いて、薄明の中に、一切の感情の陰影を失った顔の上の、東洋人特有の切れ長の眼が、彼を映しているのか、それとも彼の後方の海か、あるいは海と同じ色をした、太陽の気配をいっぱいに支えながらまだ光の射さない空を向いているのか、彼には分らなかつた。恐らく、昨夜以来直されていないらしの口紅のローズ色が、彼女の表情をよけい荒廃させてみせた。ヴァーノンは彼女の方へ進んで行き、言つてしまつてから何故そう尋ねたのかを自問しながら彼女に言葉をかけていた自分を見出したのだ。

「Did you send some one off? (誰かを見送つたかのですか?)」

一瞬、彼女は黒い切れ長の眼を大きく彼に向かつて見

開き、そして少ししづかれた低い声で言った。

「Yes, I have just speared from a man. He will never be back again. So, that means a death itself.」

ハンブルグで、サンフランシスコや、マニラや、シドニーで、ヴァーノンは彼が駐在した土地土地で、多くのその種の女達を知つていた。しかし神戸で彼が初めて見たその娼婦の言葉は、彼の心の中に何か重く沈んで行くもの、錨のように重く沈んで行くものを与えたのだった。

「愛してはいたのですか? とても」

ヴァーノンは彼女に聞かずにはいられなかつた。何故なら、彼女の眉の間に寄せられた深い翳りが、彼女を娼婦だと思った自分の直感が間違いではなかつたのかと、彼を戸惑わせたほど、苦痛に似ていたからだつた。

「多分そうかもしれないし、そうじやなかつたかもしない。でも終つたわ。死んだわ。あの男は死んだのと同じよ。そして彼にとつてあたしも、死と同じなんだわ」

それから彼女の黒い眼は、不安定に空虚をさ迷い、怯えたように、彼に向かつてまた大きく見開かれた。

「どこかへ、連れて行つてちょうだい。そしてあたしを暖めて。重いわ、重くて耐えられないわ……死は。あたしを、あたしを暖めてちょうだい、お願ひだから」(うづく)

☆新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

〈8月号予告〉

☆グラビア 「女の四季」宇津宮雅代

「万葉記」⑤ 犬養 孝

「And His Ladies」

奈良本辰也

「京阪神三市長中国訪問

レポート」

「私の散歩道」

西村大治郎、上田安子、古林喜楽

☆特集 地方自治体—環境と福祉—

「京阪神味覚ガイド」

「祇園商店街とアーケード完

成 一新しい京都—

☆連載対談⑦ 茂山千作、北岸佑吉

☆商売の最前線 「にしむら珈琲店」

☆激動のアラブを行く⑨

エジプト(下) 林 辰比古

☆「織田作之助伝」⑯ 大谷晃一

☆「播州歴史散歩」⑥ 赤穂 黒部亨

☆「競馬酔狂伝」⑥ 新橋遊吉

☆この人 この時 きだ・たろう他

月刊オール関西編集部

大阪市北区梅ヶ枝80梅新東ビル7F

TEL 06-364-2434~7(代)

曲線ハイウェイ

武田繁太郎
え・横塚繁



〔あらすじ〕 東名高速サービスエリアで多木洋介は神戸の女性宇津康子と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある日友人岡本和彦と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山へドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じないとおしさがつのり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のようになっていった康子を追い神戸にきた苦の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の霧雨氣の中で英子を探している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそつて歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの届託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかる象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

S氏と親しくなった二人は、花子を見舞い、花子の世話をしている食事を共にし、花子の話に耳を傾けた。

経験から、おどろくほど多くの動物たち、小は昆虫や小鳥、大は牛や馬や熊など、さまざまな交尾の姿を観察していた。

「だけど、総じて言えることは、どんな動物も、いつもようけんめいに愛しあっていますね。身体を張り、生命を賭けて、セックスを営んでいますね。クモの交尾なども、すさまじいほどですよ。」

象の話から、S氏の動物談議は、尽きることがなく、動物たちのセックスの話にまでおよんだ。何十年も動物ひと筋に生きてきたS氏は、そのながい

のほうが獰猛で、交尾をしますと、とたんに、オスを食い殺すとする。オスから子ダネをとつてしまえば、もう用ずみだというのだろう。

「むろん、そこは、オスのほうもよく心得ていますよ。うかつにはちかならない。巣をはつてあるメスのそばへ一ヶ月と糸を垂らしながらおりてきて、ぶらぶら糸をふりながら、メスの様子をうかがっている。そして、チャンスだとみると、目にもとまらぬ早さで、メスにいどみかかり、思いをとげると、そのまま、さつと遁れていく。まるで武藏と小次郎の対決のような、一瞬の真剣勝負なんです。食うか食われるか、決死の愛の営みなんですね」

クモのオスにとつては、それほどの危険をおかしてまで、なおメスを愛さずにはいられないところに、彼らの愛の姿があつたというのだろう。

「セックスとは、もともと、それほどきびしいものであつたはずんですよ。すべての生物にとって、種族保存ということが、自然から与えられた絶対的な要請でしょう。だから、種族を保存するための生殖行為が、生物の日常の生活の中で、もつともたいせつな、もつとも厳肅な行為であることは、当然なんですよ。ところが、どうですか。人間は。とくに、ちかごろの人間のセックスは」

S氏は、歎かわしそうに言つた。

「自然といふものは、生物にきびしい反面、非常にやさしいところがあるんです。セックスが、ただ味気ないもの、忍耐だけをするもの、苦痛を伴うものだとすれば、生物は亡びてしまう。それじゃいかんと、これは、自然の偉大な知恵なのかも知れませんが、自然は、セックスにこの世で最上の快楽と、美しい愛を与えてくれた。自然是、じつに慈悲ぶかくできているんですよ」

S氏は、康子の酌をうけながら言つた。

「ところが、人間は、この自然の恵みにたいして、恩を仇でかえすような眞似をしている。人間は、こざかしい知恵を身につけたために、セックスに与えられている愛と快樂を摘みとつて、それだけを貪欲にむさぼっている。これは、自然にたいする許しがたい反逆ですよ。わたし、男と女のプラトニック・ラブというものも認めません。プラトニックといふと、なんとなく文学的で、ロマンティックで、美しくみえるかも知れませんが、セックスをぬきにした愛など、やはり、自然の撰理に反するものですよ。愛があれば、それは、当然男女の肉体的な結合にまですすまねば、自然な姿ではない。愛とは、愛することそれ自体が、究極の目的ではないからなんであります」

「とすると、おなじように、セックスの快樂も、快樂その自体が目的ではないわけなんですね？」

「そうですよ。いま、フリー・セックスだのボルノだのという言葉がはやっていますね。だけど、人間が、快樂だけを享樂するためにセックスをおこなうことも、自然に反した行為ですよ。人間以外の動物をみてごらんなさい。みんな、自然の命じるまま、素直に、せいいつぱいセックスを営んでいますよ。こういう話は、ご婦人のままでは、失礼かも知れませんが、まあ、きいてください」

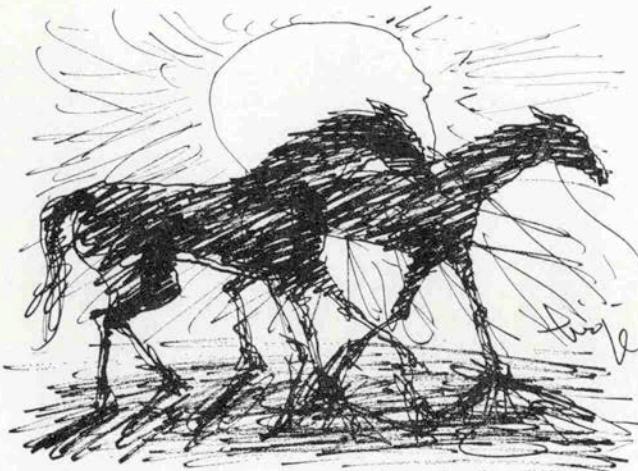
S氏は、手にしていた盃を、膳のうえにおきながら言った。

「牛でも馬でも、あるいは鶏なんかでも、彼らの交尾なんかでも、そうですね。しかしね、交尾するまでの、人間でいえばいわゆる前戯にあたる行為、たとえば馬など、じつにはほえましい」というか、あいらししいというか、馬にくらべれば、ポルノ小説などに描かれている人間の前戯は、いやらしいかぎりですよ。無理もない。こ

ういう小説では、ただセックスの快楽だけを、あくどく描こうとしているからですよ」

S氏は、目をほそめるようにして、言葉をついだ。

「馬の場合もね、オス馬のほうが、メス馬にちかよっていく。メスはじっと立つて、オスのくるのを待ちかまえている。オスは、あの長い顔で、メスの顔に頬ずりし、鼻の先きをふれあって、愛撫する。人間が愛をささやいている姿と、そつくりなんですね。メス馬も、オスの愛撫にこたえかえしている。すると、オスは、メスのお尻のほうにまわるべく、メスのわきをとおつていく。そのとき、オスは、メスの身体に自分の肌を、そつとすりつけるようにしていくんですね。動物ながら、セクシーなんですよ。動物でも、こんなにすてきな愛のテクニックを心得得



ていたのかと、おどろかれますよ。これが、馬の前戯であり、愛の交換なんですね。動物たつて、ただ本能のままに交尾しているんじゃない。人間に負けぬほど、いや、いまどきの性的快楽だけをおつかけている人間などとは比較にならぬほど、愛の欲びというものを知っているんですよ」

「なんだか、人間であるぼくたちのほうが、赤面したくなるような話ですね」

「そうかも知れません。現代のセックスは、堕落した、退廃したと、よくいわれていますね。もしもそうなら、人間は、もつと動物のセックスを見なつたほうがいいでしょう。わたしは、象の花子の身体がよくなつたら、生れ故郷のタイへかえしてやりたいとお話ししましたね」

「ええ。タイから迎えの船がくるとか」

「そうなんです。わたしが花子をタイにかえしてやりたいのは、ひとつには、花子はもう十一歳、すっかり娘ばかりになつてゐるからなんです。一日も早く、恋人をみつけてやりたい。だけど、この日本ではむつかしい。ですから、故郷のタイのジャングルにかえして、彼女自身に、すてきな恋人をみつけさせてやりたいんです。花子はきっと意中の人、いや、意中の象にめぐりあい、恋愛をし、子供を産んでくれるでしょう。そういう姿が、自然がわれわれ動物に与えてくれた、ほんとうの姿なんですよ。いま、わたしがどれほど花子をかわいがつてやつても、花子にとつては、動物としてけつして幸福ではないんです」

「人間は、どれほどかわいくても、動物を自然にかえしてやるべきなんですね？」

「そうですよ。ちかごろは、ペットブームで、人間はやたらといろんな動物を飼つていますね。人間の子供を過保護にしたように、犬や猫も、猫かわいがりにして、やれドッグフードだんだと、やたらにふとらせて喜んでいますね。それで、けつこう動物をかわいがつてゐるつもりでいます。だけど、人間は、いちばんたいせつなこ

とを忘れてはいるんです。それはね、犬や猫が発情期になつても、知らん顔をしていることです。そのために、犬や猫がどれほど性的な不満に悩んでいるか、人間はちつとも気づいてやろうとはしないんです。なかには、子供が産れたら処分にこまるからと、断種してしまふ人もいますが、これは人間のエゴですよ。人間って、つくづく残酷な動物だと思いますね。だから、ときどき、動物から復讐されるんです。それも、いたいけない幼児が、大人の犠牲になつてね

「ほほオ。どんな復讐ですか」

「よく新聞に、子供が飼い犬に噛まれて怪我をしたという記事がでるでしょう。これから、注意してみてください。噛む犬のほとんどがオスの成犬で、噛まれる子供のはほとんどが幼女のはずです」

「どうしてですか」

「発情期になつてもメス犬を与えないオス犬が、幼女の体臭のなかにメスの匂いをかぎとるのです。幼女は、オシッコなどで、どうしても下着類をよごしがちですからね。その匂いが、オス犬を興奮させ、狂暴にさせ

るのです。だけど、これは、犬がわるいんじゃない。犬を欲求不満にしている人間、つまり、飼い主がわるいんですよ」

「なるほど。飼い犬はどんなにペット化されても、やはり、動物としての本能まで失っているわけじゃないんですね」

「あたりまえのことですね。人間は、犬の言葉が理解できなければ、耳を傾けてやろうとはしない。そのため、犬はどれほど苦しみ、もだえていることか。あわれでなりません。わたしはね、犬や猫を一匹だけ飼うのは、絶対に反対なんです。すくなくとも夫婦で飼つてやるべきです。それができない人間は、動物を飼う資格がありませんよ。それは、自然の摂理にたいする冒瀆になるといつても過言ではないと思うんです」

多木は、S氏の語る動物のセックスの生態から、人間の愛と性の在り方を教えられたように思えるのだった。(つづく)

〈神戸の催し物 8月ご案内〉

＜音楽＞

★あなたと私の音楽会——アマチュア・フォーク・コンサート
8月4日(土)開場PM2:30 開演PM3:00 神戸海員会館 ¥400 主催/Kobe Music Friends
ゲスト／火の鳥

★フォーリブスショード

8月15日(水)①AM11:00～PM1:00 ②PM2:30～4:30
30神戸国際会館 A ¥2,500 B ¥1,500

★メル・テーラーとザ・ダイナミックス

8月16日(木) PM7:00～9:00 神戸国際会館 SY
1,900 A ¥1,500 B ¥1,200 C ¥1,000 ラブシート2名 ¥3,200 (全館指定席) 曲目／ワイルドで行こう、ハートに火をつけて、ワープ・アウト、キャラバンその他新曲多数

★大フィル・京響ダイナミックコンサート

8月17日(金) PM7:00～9:00 神戸国際会館 民音会員券 ¥1,200

★明治マンドリンクラブ演奏会

8月18日(土) PM1:00～4:00 神戸国際会館 ¥500 明治学校校友会兵庫県支部主催

★ニッティ・グリティ・ダート・バンド

8月18日(土) PM7:00～9:00 神戸国際会館 SY ¥2,500 A ¥2,000 B ¥1,500

★朱里エイコ オン・ステージ

8月19日(日) PM6:00～8:00 神戸国際会館 民音会員券 ¥1,000

★神戸市教職員文化祭「坂本九」

8月24日(金) ①PM2:00～4:00 ②PM5:30～7:30
25日(土) ①PM12:00～PM2:00 ②PM3:00～5:00
③PM6:00～8:00 神戸国際会館 会員券 神戸市主催

★チエリッシュアリス

8月27日(日)
PM6:30～9:00
神戸国際会館 労音会員券
A ¥1,000 B ¥700 (当日券は200円高くなります)



楽しいアリス

★高石ともやとザ・ナターシャー・セブン

8月29日(水) PM6:30～9:00 神戸国際会館 労音会員券

★ローリング・ストーンズ・フィルムコンサート

8月30日(木) 神戸国際会館 無料 ラジオ関西主催

＜演劇＞

★笑殺仕掛け人——新四谷怪談(第一部) バラエティショウ「涼風(第二部)」

8月1日(水)～10日(金) ①AM11:30～ ②PM2:30～ 神戸国際会館 S ¥1,400 A ¥900 自由席 ¥500 出演／東千代之介、花紀京、伊吹友木子、西尾三枝子、早崎文司、若井はんじ、若井けんじ、他

★人形劇ピッカリ座公演

8月1日(水) ①AM12:00～ ②PM3:00～ 芦屋ルナホール ¥300

★関西テレビ放送公開録画「ザ・タカラヅカ」

8月8日(水) PM6:30～ 芦屋ルナホール 整理券

★芸能公演「修羅と死刑台」

8月21日(火)、22日(水)、23日(木) PM6:15～9:00 神戸国際会館労演会員券 出演／米倉斎加年、伊藤孝雄、他

愛讀者
サロン



小小柏嘉嘉金大小岡牛梗石石乾砂青朝安
曾比
林磯井納井淵野根崎尾並野野木奈部
芳良健毅正元ツ一真吉正成信豊重正
夫平一六治彥ム夫造忠朗一明一彦仁雄隆夫

津玉田田滝滝竹角砂塙新白雀阪坂古後上小小
高井中宮川川中南田路谷川部本井林藤林林泉
和 健虎勝清 猛重義秀 昌 時喜末英秀徳
一操郎彦二一郁夫民孝雄渥介之勝忠楽二一雄一

神行元百村宮宮松福深畠野南難中中西直外竹
戸青吉永崎上地崎井富水 沢部波西卷脇木島馬
年会哉定辰正裏辰高芳惣専幸主 太健準之
議所女正雄郎二雄男美吉郎郎三還勝弘親郎吉

発行にいろいろお世話いただいた方がた

戸つ子愛読者諸君も今一度、各コ
スをトライしてみよう。

年々豪華になっていくのがよくわかります。私は六甲山特集、楽しんでいたときもまた、六甲山に生まれて二六年、卒業した中学、高校のすぐ裏側から手軽に登れたせいもあるが、何度も登ったコースもあり、未だ登ったこともないコースもある。六甲山もこうして見ると、かくされた魅力が数多くある

後編
記集



星降る夏の夜の読物として八月は『星、星、星』。『星、星、星』。世の中は冷房時代で一昔前のよう、夏の夜空を眺めながら隣地で近所の人々が集まつて涼みながら語りあうといふようなことを書くなくなってしまった。現代ならさしつけぬワインにじゅうたんの上で寝転ぶあののうじょうか。△小京康夫△

★七月七日の午後七時からオーラカルボホテルで開かれた「ロウコロ」ティ。短期間の準備でウロコロいたしましたが、ご協力いろいろとありがとうございました。この集いが、交説の遊びの中からまた新しいアーチャンソンへのサムシングが生れるものと楽しみです。△小京美喜子△

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとどけていただきたい方は、編集室あてにお申込み下さい。さっそくお返しします。

★編集室のクーラーの冷えるところほど、身体が凍つてしまわないかと思うほど。ど、「寒い、寒い」とつぶやきしながら、外に出て身体を鍛めるという都合のない会の珍事。

△西久保作家放談の現場に立ち会わせた、すごいテンポで開わされた二人の口。話の毒氣にあてられ、あれ以後私公のボルテージは上がりっぱなしで、剥剝です。△井上久代

★今月もアツという間に過ぎてしまつた。月日の経つのは速いものだ。今年の今ごろ、私は夏休みで暑い暑いといふなからノンビリ過ごしていかねばならぬだけ。

△中村雅子

| | | | | |
|-------|------------|----------------|----------------|------------------------------|
| 振替口座 | 神戸つ子NO.148 | ★発行/編集・発行/小泉康夫 | ★発行/編集・発行/小泉康夫 | ラ南 ノ天 書 |
| (331) | 48年8月1日 | 48年8月1日 | 48年8月1日 | 秋木本隆進 田村光南 百堂文文 書書文 |
| 2 | 大神ビル8階 | 神戸市生田区東町113の1 | 神戸市生田区東町113の1 | 木下房林店 堂林店房 |
| 2 | 大神ビル8階 | 神戸市生田区東町113の1 | 神戸市生田区東町113の1 | 堂堂館 |
| 4 | (代) | | | |
| 6 | | | | |
| 神戸 | | | | |
| 四五 | | | | |
| 一九九六 | | | | |
| 領価 | 200円 | | | |